

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：35405

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720301

研究課題名(和文)被爆者の英語による証言の理解と伝達の追跡調査 - 情報と解釈の変化の分析 -

研究課題名(英文) Follow-up survey of understanding and conveying hibakusha testimony in English: An analysis of interpretation and changes of information

研究代表者

大場 美和子 (OHBA, MIWAKO)

広島女学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50454872

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円、(間接経費) 720,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、広島における平和学習活動において、被爆者自身が英語で行う被爆証言を聴講した米国人学生が、被爆証言をどのように理解し、帰国後に被爆証言の内容をどのように友人に伝えているのか、米国人学生を追跡してアンケート調査と伝達の会話の調査を行い、被爆証言の理解と伝達の実態を探ったものである。まず、アンケート調査では、質問に対して端的な回答が得られ、証言内容の全体的な理解が確認された。一方、伝達の会話の調査では、伝達の会話の参加者の関心や原爆などに関する情報量の違いにより、言及する話題が会話によって異なり、話題中の情報も減少するだけでなく、詳細化・多様化する特徴が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study focused on American university students who listened to hibakusha testimony in English in a peace study program in Hiroshima. It investigated how they understood and conveyed what they heard from hibakusha by two follow-up surveys, a questionnaire and a transmission conversation, after going back to their country. Questionnaires show their overall understanding by their concise answers. Transmission conversations, on the other hand, show that topics which were mentioned in the conversations vary according to students' interests and amount of information about A-bomb, and not only a decrease but also an increase of information in those topics were found.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：伝達の会話 被爆証言 英語 異文化間コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

広島では、原爆の悲惨な実態を伝えるための平和学習活動がさかんに行われ、広島県内の大学では、夏季に国外の提携大学などの学生を受け入れ、短期の平和学習活動が実施されることが多い。調査者の勤務先で行われる米国人学生対象の平和学習活動では、被爆者自身が英語で証言を行い、米国人学生が証言者から、直接、証言を聴講する活動もある。そして、証言者は、原爆の悲劇を二度と繰り返さないためにも、直接的な聞き手を通して、証言の内容が広く世界に伝えられることを望むと述べて証言を締めくくることが多い。ただし、この英語を媒介語にした被爆証言を、米国人学生はどのように受け止め、帰国後、被爆証言のどの内容をどのように伝えているのか、証言の理解と伝達に関する追跡調査は体系的には行われていない。本研究では、調査者のこれまでの異文化間コミュニケーションの分析の手法を用いることで、米国人学生の被爆証言に対する理解と伝達の実態を探り、今後の平和学習活動のありかたを検討することをめざすものである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、広島において、被爆者自身が英語で米国人学生を対象に証言を行う平和学習活動に着目し、被爆証言を米国人学生がどのように受容して理解しているのかという(1)被爆証言の理解の実態、受容した被爆証言を帰国後にどのように友人に伝えているのかという(2)被爆証言の伝達の実態を明らかにすることである。証言の聞き手の米国人学生に対する追跡調査を行うことで、英語による被爆証言の理解と伝達の実態とその特徴を、データから明らかにする。

3. 研究の方法

以下の(1)～(3)の手順でデータを収集し、分析を行った。

(1) データ収集

3種類のデータ収集(被爆証言、追跡

アンケート調査、伝達場面の会話調査)を行った。被爆証言は、平和学習活動中の被爆証言(約1時間)の録音・録画である。追跡アンケート調査は、被爆証言の聞き手の米国人学生に対し、帰国後にメールを介して調査用紙(記述式)を送付したものである。質問項目は、被爆証言の収録データをもとに、証言の内容の事実関係が確認できるように作成した。伝達場面の会話調査は、被爆証言の聞き手が帰国後に友人に対し、被爆証言を含む広島での平和学習活動について自由に話して伝達する場面の会話(15分～30分程度)の録音・録画である。

(2) 追跡アンケート調査の分析

質問は大きく4つの項目(平和学習、証言者、証言内容、平和学習参加前後)に分けられ、質問数は計18である。まず、証言者・証言内容の項目に対する回答と被爆証言の内容の比較から、米国人学生の被爆証言の理解の実態を探った。次に、平和学習・平和学習参加前後の項目に対する回答から、事前学習の状況、そして、実際に帰国後に平和学習活動について他者に伝えていることを確認した。

(3) 被爆証言と伝達場面の会話の言及内容の分析

まず、収録した被爆証言と伝達場面の会話を全て文字化し、発話を文単位で区切って、各発話文における言及内容を記述し、内容のまとまりから12の話題カテゴリーに分類した。次に、この分類をもとに、伝達の会話において、米国人学生が被爆証言のどの部分をどのように友人に伝達しているのかについて、被爆証言と伝達の会話の話題カテゴリー別の集計、及び、会話例の質的分析より探った。

4. 研究成果

(1)追跡アンケート調査による聞き手の理解の分析

平和学習の項目では、米国人学生は平

和学習活動の前に何らかの情報を調べており、学習意欲の高い学生であったと考えられることが確認され、追跡調査の伝達場面の会話における言及話題にも影響していたと考えられる。

証言者の項目では、アンケート調査がすでに被爆証言の聴講から半年後であり、証言者の名前や年齢などの基本情報を回答した学生は殆どいなかった。

証言内容の項目では、事実関係の詳細に多少のずれは観察されたものの、被爆当日の体験から戦後の体験、証言の主張に至るまで、ほぼ証言の内容通りに簡潔に答えられており、証言内容は概ね理解されていると考えられることが確認された。

平和学習参加前後の項目では、家族や友人に被爆証言も含めて平和学習活動について語っていたこと、またその会話は追跡調査の伝達場面の会話に近い状態であると考えられることが確認された。

(2)伝達場面の会話の特徴の分析

12の話題カテゴリー別の集計より、特徴を2点指摘した。1点目に、全体として証言者の被爆当日や後日の体験情報の話題カテゴリーへの言及が多く、これに続いて参加者の主観情報の話題カテゴリーに言及する傾向を指摘した。被爆証言の事実関係に言及し、それに対する参加者の解釈を述べ、証言に対する意味づけを行っていると考えられる。

2点目に、特定の話題カテゴリーに特に言及する会話と、複数の話題カテゴリーに言及する会話が観察されたことを指摘した。追跡アンケート調査には質問項目全体に端的に回答がなされており、証言内容は全体的に理解されていたと考えられるが、伝達場面の会話では参加者は関心のある内容に言及し、その言及のありかたも会話により異なるといえる。

さらに、会話例を質的に検討すると、被爆証言には出現しない多様な話題への言及も

明らかとなった。また、単に話題が多様化するのではなく、話題中の情報が詳細化し、参加者の主観情報の話題カテゴリーの増加も観察された。これらの特徴には、伝達の会話の伝え手だけでなく受け手(友人)の発話も影響しており、伝達の会話の参加者の話題に対する関心や情報量の影響が観察された。

(3)被爆証言と伝達場面の会話の比較分析

2種のデータの12の話題カテゴリー別の集計より、どの伝達の会話においてもほぼ言及される話題とあまり言及されない話題に分かれる傾向にあることを指摘した。米国人学生が被爆証言の中で関心を持った話題を選択し、伝え手なりに伝達の会話において被爆証言の情報の意味づけを行いながら、受け手とともに伝達という会話を行っていると考えられる。よって、被爆証言と比較すると、言及する話題数に違いが生じるものと考えられる。

2種のデータの情報の言及のありかたを質的に比較すると、情報の曖昧化、情報の追加が特徴として観察された。情報の曖昧化は、明らかに情報の一部が被爆証言と異なっていたり、具体的な数値や重要な表現が別の表現で言い換えられたり、欠落したりする現象である。一方、情報の追加は、ほぼ同等の内容であるが、被爆証言にはなかった周辺の情報追加され、前後の流れをつなげて物語を作るように言及したり、伝え手なりの表現で言い換えたりする現象である。つまり、被爆証言における情報は減少したり、消滅したりするだけでなく、逆に伝達者によって詳細化されたり、物語が構成されたりする現象もあるという点を指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

大場美和子、英語による被爆証言の聞き手の追跡調査 - 米国人学生の理解と伝達の

特徴の分析 -、広島女学院大学大学院言語文化論叢、査読無、17号、2014、31-47

(2)研究分担者なし。

〔学会発表〕(計5件)

大場美和子、英語による被爆証言と伝達の会話における情報の比較方法の課題、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な様式を網羅した会話コーパスの共有化」研究会、2013年3月24日、於・統計数理研究所・国立国語研究所

大場美和子、英語による被爆証言と伝達の会話における情報の比較 - 聞き手の米国人学生の追跡調査をもとに -、社会言語科学会第31回大会、2013年3月16、17日、於・統計数理研究所・国立国語研究所

大場美和子、英語による被爆証言の聞き手の追跡調査 - 米国人学生の理解と伝達の特徴の分析 -、社会言語科学会第30回大会、2012年9月1、2日、於・東北大学

大場美和子、英語による被爆証言はどのように伝達されたか - 米国人学生の追跡調査を対象に -、第12回広島・方言研究会、2012年6月23日、於・県立広島大学

Ohba, Miwako , Enforced norms of hibakusha through testifying in English for foreigners in Hiroshima. Second International Language Management Symposium. , October 1-2, 2011, Waseda University.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし。

6. 研究組織

(1)研究代表者

大場 美和子 (OHBA MIWAKO)

広島女学院大学・文学部・准教授

研究者番号：50454872

(3)連携研究者なし。